



第76期  
中間事業レポート

平成18年11月1日 ▶ 平成19年4月30日

 MIROKU 株式会社 **ミロク**

証券コード | 7983

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、  
ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
ここに、第76期（平成18年11月1日から平成19年10月31日まで）の  
中間事業レポートをお届けいたします。  
今後とも株主の皆様から厚いご指導、ご支援を賜りますよう、  
何卒よろしく願い申し上げます。

平成19年7月  
代表取締役社長

弥勒 美彦



### 中間決算の概要 期待に応える、より良い製品作りに邁進しました。

当中間連結会計期間の日本経済は、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加に加え、雇用情勢の好転で個人消費が持ち直すなど、景気は回復基調で推移いたしました。

このような状況のもと、ミロクグループは顧客の期待に応えられるより良い製品作りを目指し、独自性の高い製品の開発や品質向上、また生産効率の向上および原価低減への取り

組みなど、グループ一丸となって業績向上に努めてまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結売上高は7,663百万円（前年同期比0.8%増）となりました。利益面では、経常利益720百万円（前年同期比18.0%減）、中間純利益554百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

### 戦略と課題 三事業を中核に据え、

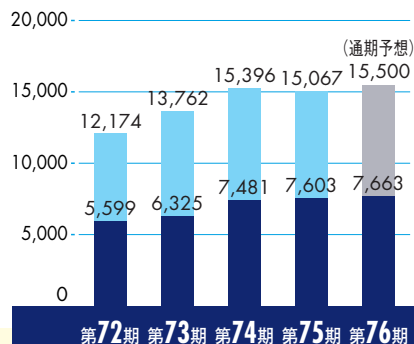
今後もミロクグループは、資本効率を追求した経営体制の確立とコスト構造の改革を実施し、経営効率向上に努力してまいり所存です。中長期的な経営戦略としては、猟銃・工作機械・自動車関連の三事業を中核に据えた戦略をより強く志向してまいります。

猟銃事業は、成熟産業ゆえに大きな成長は望み難しく、価格競争もこれまで以上に激化しています。当事業の戦略としては、購買意欲を刺激する新製品の開発とタイムリーな市場投入、高付加価値・高品質化の実現、さらに生産工程・業務の見直しによる生

## ハイライト情報 (連結)

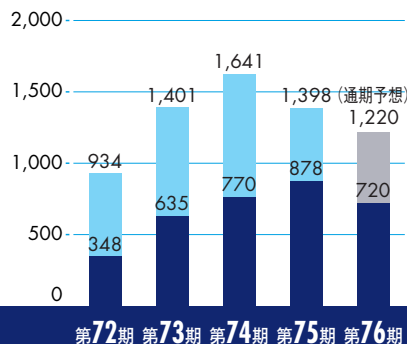
### 売上高

単位:百万円



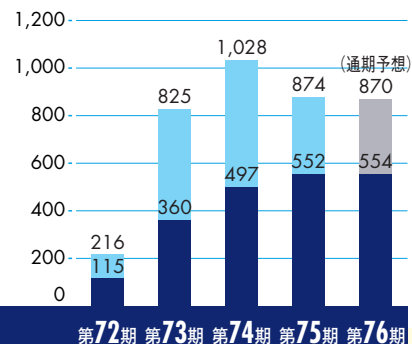
### 経常利益

単位:百万円



### 当期 (中間) 純利益

単位:百万円



■ 中間 ■ 通期

## 経営効率のさらなる向上へ。

産革新活動を推進し、利益の確保を図ります。

工作機械事業においては、安定した収益が見込めるツール部門と加工部門の拡充が当面の課題です。長期的には、日系企業に的を絞った海外需要の獲得が、さらなる飛躍のキーであると考えます。

自動車関連事業の命題は、利益増をもたらすトップライン(売上)の成長にあります。そのため、トヨタ生産方式の本格的展開による継続的改善と、新たな製造技術の導入が不可欠です。さらに、純木製ハンドルに的を絞った深耕と新分野への飛躍が課題になります。

## 今後の見通し 競争力をより一層強化し、企業価値の向上に努めます。

下半期は、原油価格の高騰による原材料価格の値上げや金利の上昇などの懸念材料があるものの、国内景気は底堅く回復基調で推移するものと思われまます。

このような環境のもと、当社はグループ企業の純粋持株会社として、グループ企業全体の成長性と収益性を見極め、各々の事業分野で市場動向を踏まえた事業戦略を立案。機動的な対応に

よって競争力を強化し、企業価値の向上に努めてまいります。

通期の連結業績予想は、売上高15,500百万円(前期比2.9%増)、経常利益1,220百万円(前期比12.8%減)、当期純利益870百万円(前期比0.5%減)を見込んでおります。

## Ⅲ 猟銃事業

売上高  
3,164百万円

売上高  
構成比  
41.1%

### ショットガン



### ライフル



### ※営業概況

猟銃事業におきましては、主力の米国市場で原油高によるガソリン価格の再上昇などの影響により、ハンティングの抑制やシューティングの出足が鈍化する厳しい状況が続き、主力製品である上下二連銃と付加価値の高いボルトアクションライフル銃が減少し、販売数量は前年同期を下回りました。以上の結果、売上高は3,164百万円（前年同期比10.1%減）、営業利益は90百万円（前年同期比71.4%減）となりました。

なお、猟銃部品の生産集約化および効率化を図るため、工場用地を平成18年6月に取得し、平成19年7月に新工場が完成する予定です。

## Ⅲ 工作機械事業

売上高  
2,122百万円

売上高  
構成比  
27.5%



ガンドリルマシン



ガンドリルツール

### ※営業概況

工作機械事業におきましては、自動車・金型関連業界を中心とする設備投資が引き続き好調に推移し、機械部門は前年同期に比べ、ガンドリルマシンの販売台数が55.2%増と好調であったことから、増収・増益となりました。ツール部門および加工部門は、前年同期に比べ若干の減収・減益。その結果、売上高は2,122百万円（前年同期比12.3%増）、営業利益は534百万円（前年同期比13.6%増）となりました。

なお、ガンドリルツールの生産工場の増改築が平成18年12月に完成し、平成19年1月に稼動。また、ラッピングマシン用定盤の生産ラインの新工場が平成19年4月に完成し、平成19年5月から稼動しています。

## 自動車関連事業

売上高  
2,401百万円

売上高  
構成比  
31.2%



ウォールナット  
(くるみ)製

メイプル  
(かえで)製



シフトノブ



レバーコンビネーションスイッチ

### 営業概況

自動車関連事業におきましては、自動車業界の好調に伴い、引き続き順調に推移しております。主力となる純木製ステアリングハンドルおよびシフトノブの販売数量は、搭載車種への装着率が増加したことなどによって、前年同期を上回る業績となりました。その結果、売上高は2,401百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益は11百万円(前年同期比18.7%減)となりました。

なお、事業現場におけるトヨタ生産方式の本格的な展開によって、リードタイムの短縮や1人当たりの生産性が向上するなどの効果が徐々に現れ始めております。

## その他事業

売上高  
18百万円

売上高  
構成比  
0.2%



愛知県名古屋市/徳川園



広島県豊田郡本郷町/中央森林公園・三景園

### 営業概況

猟銃用木材の耐候性研究から生まれた独自の含浸技術を屋外建築用木材に応用したのが「ミロモックル製品」です。木工事業部門ではミロモックル製品を活用し、リゾートパークやイベントパークとしての公園、大規模公園内オートキャンプ場、地域活性化拠点としてのテーマパーク整備事業などのデザインにも積極的に取り組んでおります。また、ウッドデッキなどの一般住宅用建材向けの加工・施工にも力を注いでいます。しかしながら、公共投資の低迷などから厳しい環境が続き、売上高は18百万円、営業損失は1百万円となりました。

# 中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間連結会計期間末	前連結会計年度末	科目	当中間連結会計期間末	前連結会計年度末
	(平成19年4月30日)	(平成18年10月31日)		(平成19年4月30日)	(平成18年10月31日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>6,812,591</b>	<b>6,392,730</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,006,117</b>	<b>5,533,500</b>
現金及び預金	795,385	925,882	支払手形及び買掛金	2,566,827	2,249,675
受取手形及び売掛金	3,355,037	2,936,266	短期借入金	1,800,000	1,800,000
たな卸資産	2,306,814	2,203,975	1年以内償還予定の社債	300,000	300,000
繰延税金資産	178,071	120,443	未払法人税等	277,173	261,581
その他	204,595	229,814	繰延税金負債	1,334	1,313
貸倒引当金	△27,313	△23,651	賞与引当金	298,268	132,546
<b>固定資産</b>	<b>9,242,323</b>	<b>8,763,902</b>	役員賞与引当金	20,125	53,900
<b>有形固定資産</b>	<b>5,217,442</b>	<b>4,915,438</b>	その他	742,386	734,483
建物及び構築物	1,260,802	1,112,777	<b>固定負債</b>	<b>2,245,207</b>	<b>2,333,507</b>
機械装置及び運搬具	1,913,722	1,862,642	社債	200,000	200,000
土地	1,568,295	1,568,547	長期借入金	800,000	800,000
その他	474,622	371,471	繰延税金負債	329,113	241,297
<b>無形固定資産</b>	<b>79,240</b>	<b>91,038</b>	退職給付引当金	774,394	730,902
のれん	3,464	7,392	役員退職慰労引当金	141,523	359,194
その他	75,776	83,645	負ののれん	176	2,113
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,945,640</b>	<b>3,757,425</b>	<b>負債合計</b>	<b>8,251,324</b>	<b>7,867,008</b>
投資有価証券	2,816,634	2,631,239	<b>純資産の部</b>		
繰延税金資産	389,476	382,152	<b>株主資本</b>	<b>7,396,790</b>	<b>6,909,973</b>
その他	900,573	943,215	資本金	863,126	863,126
貸倒引当金	△161,043	△199,182	資本剰余金	519,289	519,289
<b>資産合計</b>	<b>16,054,914</b>	<b>15,156,632</b>	利益剰余金	6,083,830	5,595,987
			自己株式	△69,456	△68,429
			<b>評価・換算差額等</b>	<b>399,791</b>	<b>368,653</b>
			その他有価証券評価差額金	401,470	369,280
			為替換算調整勘定	△1,679	△626
			<b>少数株主持分</b>	<b>7,008</b>	<b>10,996</b>
			<b>純資産合計</b>	<b>7,803,590</b>	<b>7,289,624</b>
			<b>負債及び純資産合計</b>	<b>16,054,914</b>	<b>15,156,632</b>

## 中間連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間
	(自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日)	(自 平成17年11月1日 至 平成18年4月30日)
売上高	7,663,443	7,603,572
売上原価	6,338,669	6,095,309
売上総利益	1,324,774	1,508,262
販売費及び一般管理費	788,353	811,392
営業利益	536,421	696,870
営業外収益	208,734	199,615
受取配当金	9,281	13,272
持分法による投資利益	158,117	142,030
その他	41,334	44,311
営業外費用	24,687	18,180
支払利息	18,485	16,072
その他	6,202	2,107
経常利益	720,467	878,305
特別利益	170,199	15,870
貸倒引当金戻入益	987	—
その他	169,211	15,870
特別損失	61,219	26,575
固定資産除却損	7,526	1,396
役員甲斐金	40,000	—
その他	13,692	25,178
税金等調整前中間純利益	829,447	867,599
法人税・住民税及び事業税	275,100	399,330
法人税等調整額	△408	△82,632
少数株主利益又は損失(△)	223	△1,120
中間純利益	554,532	552,021

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間
	(自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日)	(自 平成17年11月1日 至 平成18年4月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	323,654	289,137
投資活動による キャッシュ・フロー	△367,945	△252,466
財務活動による キャッシュ・フロー	△86,532	△79,575
現金及び現金同等物に 係る換算差額	325	△175
現金及び現金同等物の 減少額	△130,497	△43,078
現金及び現金同等物の 期首残高	925,882	937,520
現金及び現金同等物の 中間期末残高	795,385	894,441

## 中間連結株主資本等変動計算書

(自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日)

(単位:千円)

	株 主 資 本				評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計	
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定			評価・換算 差額等合計
平成18年10月31日残高	863,126	519,289	5,595,987	△68,429	6,909,973	369,280	△626	368,653	10,996	7,289,624
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△66,689		△66,689					△66,689
中間純利益			554,532		554,532					554,532
自己株式の取得				△1,026	△1,026					△1,026
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の 変動額(純額)						32,190	△1,052	31,137	△3,988	27,149
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	487,843	△1,026	486,816	32,190	△1,052	31,137	△3,988	513,965
平成19年4月30日残高	863,126	519,289	6,083,830	△69,456	7,396,790	401,470	△1,679	399,791	7,008	7,803,590

# 中間個別財務諸表

## 中間貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間会計期間末 (平成19年4月30日)	前事業年度末 (平成18年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,607,906	2,466,623
固定資産	5,996,058	5,727,112
有形固定資産	1,927,972	1,751,118
無形固定資産	1,108	1,498
投資その他の資産	4,066,978	3,974,495
資産合計	8,603,965	8,193,736
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,338,081	2,248,423
固定負債	1,398,631	1,452,634
負債合計	3,736,712	3,701,058
<b>純資産の部</b>		
株主資本	4,473,610	4,134,177
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	531,290	531,290
利益剰余金	3,120,812	2,780,352
自己株式	△41,619	△40,592
評価・換算差額等	393,641	358,500
その他有価証券評価差額金	393,641	358,500
純資産合計	4,867,252	4,492,677
負債及び純資産合計	8,603,965	8,193,736

## 中間損益計算書

(単位:千円)

科目	当中間会計期間 (自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日)	前中間会計期間 (自 平成17年11月1日 至 平成18年4月30日)
営業収益	481,222	535,303
営業費用	157,150	164,336
営業利益	324,071	370,966
営業外収益	69,195	60,235
営業外費用	18,989	16,576
経常利益	374,277	414,625
特別利益	154,932	—
特別損失	59,095	15,955
税引前中間純利益	470,113	398,670
法人税、住民税及び事業税	516	16,806
法人税等調整額	62,448	6,952
中間純利益	407,149	374,911
前期繰越利益	—	495,394
中間未処分利益	—	870,305

## 中間株主資本等変動計算書

(自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日)

(単位:千円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成18年10月31日残高	863,126	531,290	2,780,352	△40,592	4,134,177	358,500	4,492,677
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△66,689		△66,689		△66,689
中間純利益			407,149		407,149		407,149
自己株式の取得				△1,026	△1,026		△1,026
固定資産圧縮積立金取崩額 株主資本以外の項目の中間会計期間中の 変動額(純額)						35,141	35,141
中間会計期間中の変動額合計	—	—	340,460	△1,026	339,433	35,141	374,574
平成19年4月30日残高	863,126	531,290	3,120,812	△41,619	4,473,610	393,641	4,867,252



## 1 高知テクノパークの新工場など、生産体制を拡充

高知県香美市にある高知テクノパークは高知工科大学に隣接し、産学連携などを推進するにも絶好の環境が整っています。この地で、猟銃部品等の製造を担う「部品加工センター」の建設が進行しています。

平成18年6月に約1.2ヘクタールの用地を取得、平成19年7月に新工場を完成させ、11月から本格稼働の予定です。この新工場は鉄骨2階建てで、延べ面積は約4,740平方メートル。ここに、分散している猟銃部品の生産工程の一部を集約する予定です。これにより、新工場を中心に低コストで高精度の部品を生産し、猟銃事業の生産効率を向上させ、競争力をより一層高めてまいります。

また、工作機械事業におきましても、ここ数年は生産能力の上限にほぼ達していたガンドリルマシン用のツール生産工場を増改築し、平成19年1月より生産稼働しております。



テクノパーク新工場の安全祈願祭



ツール工場  
(高知県南国市)



定盤工場  
(高知県南国市)

さらに、ラッピングマシン用定盤の専用生産ラインを構築するため、平成19年5月より新工場で稼働するなど、生産体制の充実を図っております。

## 2 「高新駅伝」で32年ぶりに悲願の優勝

平成19年1月の「第60回高新駅伝」で、ミロク陸上クラブは往路復路の完全制覇を達成しました。実に32年ぶりの快挙です。

前回大会は、優勝候補ながらスタートでつまずき、栄冠を逃すことに。その雪辱を果たすため、チームワークに磨きをかけた1年間でした。「どんな時も応援してくれる会社や同僚

に支えられた」と語るベテラン選手と一緒に新人たちも活躍しました。ベテランから若手へ、次代を担う「たすき」は確実につながったようです。



## 会社概要

社 名：株式会社ミロク  
Miroku Corporation

所在地：高知県南国市篠原537番地1

設立：1946(昭和21)年7月5日  
2003(平成15)年5月1日持株会社化

資本金：863,126千円

従業員数：569名(連結対象子会社含む)

事業内容：**猟銃事業**  
猟銃の製造および販売

**工作機械事業**  
深孔加工機等工作機械・工具の製造  
および販売

**自動車関連事業**  
自動車用部品の製造および販売

**その他事業**  
木工製品の加工および販売

## 連結子会社

株式会社ミロク製作所  
株式会社ミロク精工  
株式会社香北ミロク  
株式会社梶原ミロク  
ミロク機械株式会社  
MIROKU MACHINE TOOL, INC.  
株式会社馬路ミロク

## 役員

代表取締役社長：弥勒 美彦  
代表取締役専務：田中 勝久

取締役 役：四手井 洋一  
取締役 役：荒井 瑞夫  
取締役 役：チャールズ・グブラumont  
取締役 役：近藤 久視  
取締役 役：堀川 洋幸  
取締役 役：ジャン・ピエール・ワレマック

常勤監査役：深見 裕夫  
監査役：山本 吾一  
監査役：加藤 康彦  
監査役：大西 俊郎

## 関連会社

株式会社ミロク工芸  
ニッサンミロク株式会社  
株式会社ミロクテクノウッド  
T&M USA INC.  
株式会社特殊製鋼所  
株式会社ミロク興産

Stock  
Information  
(平成19年4月30日現在)

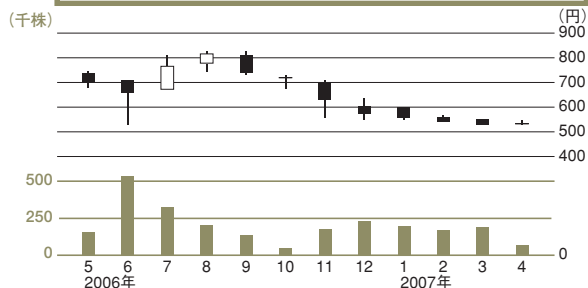
## 株式の状況

発行可能株式総数 ..... 50,000,000株  
発行済株式総数 ..... 15,027,209株  
株主数 ..... 1,290名

## 大株主（上位10名）

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
ブローニング・アームズ・カンパニー (常任代理人 野村證券株式会社)	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
ミロク共栄会	509	3.4
日本油脂株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0
日本生命保険相互会社	444	3.0

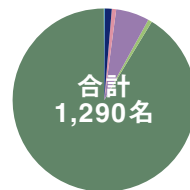
## 株価・売買高の推移



## 株式分布状況

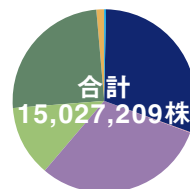
### 所有者別株主数

政府・地方公共団体	1名 (0.08%)
金融機関	16名 (1.24%)
証券会社	10名 (0.77%)
その他の法人	76名 (5.89%)
外国法人等	9名 (0.70%)
個人・その他	1,177名 (91.24%)
自己名義株式	1名 (0.08%)



### 所有者別持株数

政府・地方公共団体	45,600株 (0.30%)
金融機関	4,542,623株 (30.23%)
証券会社	18,003株 (0.12%)
その他の法人	4,596,231株 (30.59%)
外国法人等	1,879,845株 (12.51%)
個人・その他	3,735,703株 (24.86%)
自己名義株式	209,204株 (1.39%)



## ※ホームページのご案内

企業・製品・採用情報のほか、投資家情報コーナーも充実させ、財務データや決算短信などを公開しています。銃作りの工程を分かりやすく紹介した「バーチャル工場見学」も好評です。ぜひご覧下さい。



URL <http://www.miroku-jp.com/>

# 株主メモ

事業年度：毎年11月1日から翌年10月31日まで

基準日：定時株主総会 10月31日  
剰余金の配当 期末 10月31日  
中間 4月30日

株主名簿管理人：〒100-0005  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：〒530-004  
(お問い合わせ先) 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777 (フリーダイヤル)

同取次所：三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店

公告方法：電子公告の方法により行います。  
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、  
日本経済新聞に掲載します。  
電子公告掲載URL  
<http://www.miroku-jp.com/>

単元株式数：1,000株

証券コード：7983

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の  
電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話 (フリーダイヤル)  
0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>



高知県南国市篠原537番地1  
TEL:088-863-3310



このレポートは、環境に配慮し、古紙配合率100%再生紙  
と大豆油インキを使用しております。